

学習支援計画書（シラバス）

学生は、大学生としての基本的な修学能力を育成するために、自らが修学計画を立案、実行していく学習スタイルを構築する必要があります。そのために、各授業科目の目標、教育内容など明示した学習支援計画書（シラバス）を公開し、教育内容のオープン化を行っています。また、各学期の最終講義時間に行われる自己点検授業では、学習支援計画書に明記している「学生が達成すべき行動目標」について、各自の達成度の確認を行うとともに、場合によっては学習の補足ならびに、習熟度の向上とさらなる意欲の開発に繋がります。さらに、授業の最後に実施する授業アンケートによって、授業実施内容に関する意見を聞くことで、学生と教員とのコミュニケーションをよび授業内容のさらなる充実化を図っています。

学習支援計画書（シラバス）は、みなさんが修学・履修計画を立てる際に、ぜひとも参考にしてください。学習支援計画書には、以下の内容が掲載されています。

平成27年度 学習支援計画書																							
①	授業科目区分	科目名	単位数	科目コード	開講時期	履修方法																	
	修学基礎教育課程 修学基礎科目 修学基礎	修学基礎 A Basic Style for Study A	2	6001-01	1期(前学期)	修学規程第4条を参照																	
②	担当教員名	研究室	内線電話番号	電子メールアドレス	オフィスアワー																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">キーワード</th> <th>授業科目の学習教育目標</th> </tr> <tr> <th colspan="3">学習教育目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>KITポर्टフォリオ</td> <td rowspan="5">本学での学習や生活に意欲的に取り組むため、学習環境と学生生活に潜む危険性を理解し、学習や生活スタイルを身につけ実践することができる。自己管理や共同の実践を通してその重要性を認識し、本学生として学習や生活に取り組む正しい能力を「修学ポर्टフォリオ」などの活用を通して身につけることができる。所属する学科の専門知識を理解し、学習目標の設定と達成のための計画を設計し、「修学ポर्टフォリオ」などの活用を通してキャリアデザインの意識を高め、自己実現へと積極的に行動する態度を身につけることができる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>大学での学び方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>修学設計</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>キャリアデザイン</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>個人面談</td> </tr> </tbody> </table>							キーワード		授業科目の学習教育目標	学習教育目標			1	KITポर्टフォリオ	本学での学習や生活に意欲的に取り組むため、学習環境と学生生活に潜む危険性を理解し、学習や生活スタイルを身につけ実践することができる。自己管理や共同の実践を通してその重要性を認識し、本学生として学習や生活に取り組む正しい能力を「修学ポर्टフォリオ」などの活用を通して身につけることができる。所属する学科の専門知識を理解し、学習目標の設定と達成のための計画を設計し、「修学ポर्टフォリオ」などの活用を通してキャリアデザインの意識を高め、自己実現へと積極的に行動する態度を身につけることができる。	2	大学での学び方	3	修学設計	4	キャリアデザイン	5	個人面談
キーワード		授業科目の学習教育目標																					
学習教育目標																							
1	KITポर्टフォリオ	本学での学習や生活に意欲的に取り組むため、学習環境と学生生活に潜む危険性を理解し、学習や生活スタイルを身につけ実践することができる。自己管理や共同の実践を通してその重要性を認識し、本学生として学習や生活に取り組む正しい能力を「修学ポर्टフォリオ」などの活用を通して身につけることができる。所属する学科の専門知識を理解し、学習目標の設定と達成のための計画を設計し、「修学ポर्टフォリオ」などの活用を通してキャリアデザインの意識を高め、自己実現へと積極的に行動する態度を身につけることができる。																					
2	大学での学び方																						
3	修学設計																						
4	キャリアデザイン																						
5	個人面談																						
③	授業の概要および学習上の助言																						
	1. 毎日「1週間の行動履歴」を記録し、KITポर्टフォリオ（web上）に入力することやカウンセリングセンター講話の聴講を通して、自己管理能力を高める。 2. 1年次後学期以降の履修計画を立てられるよう、本学の教育課程（修学基礎教育課程・英語教育課程・理工学基礎教育課程・基礎実技教育課程・専門教育課程）と教育制度についての理解を深める。 3. 学長講話・学生部長講話を聴講し、「KIT IDEALS」や「学生宣言」の意味や意義を規範意識を含めて理解することで、本学生としての意識、および、修学に対する意欲を高める。 4. 正しい日本語表現力、文章・小論文作成およびグループ討論の基本的な技法を学習し、身につける。また、本学の諸施設の機能と利用法を確認して、自学自習の意欲を高める。 5. キャリアデザインに関する講義の聴講、キャリアポर्टフォリオの作成、キャリアデザインの観点を含む小論文の作成を行い、キャリアデザインの必要性を理解する。 6. 「新聞ポर्टフォリオ」の作成を通して、社会問題などへの関心を深める。 7. 学習・生活など、修学全般についての個人面談を行う。 ①出席・提出物の締切を守ることは特に厳しく評価する。 ②科目のホームページを頻繁に見ること。http://edu.kanazawa-it.ac.jp/shugaku/																						
④	【教科書および参考書・リザードブック】 教科書：修学基礎2015[金沢工業大学] 参考書：指定なし リザードブック：指定なし																						
⑤	履修に必要な予備知識や技術																						
	1. 「KIT IDEALS」を理解し実践する意志 2. 「学生宣言」を理解し実践する意志 3. 金沢工業大学「人間力」を身に付ける意志 4. 「自ら学ぶ」という意志と意欲																						
⑥	No.	学習教育目標 (記号表記)	学生が達成すべき行動目標																				
	①	A,B	「1週間の行動履歴」などの作成を通して自己管理能力を高め、提出物の締切遵守を含めた「自ら学ぶ」姿勢を確立できる。																				
	②	A	本学の施設概要を理解し、自己実現のために活用方法を文章で報告することができる。																				
	③	A,B	文章作成や講話聴講の基本技術を学習し、メールに添った文章の作成や、講話内容の的確な整理・報告ができる。																				
	④	A,B	グループ討論を通して自己の理解と他者の理解を対比させ、意見をまとめ、目録および文章で表現・発表することができる。																				
	⑤	A	今後の学習目標を明確にするとともに、後学期の履修計画を立てることができる。																				
	⑥	A,B	本科目における「学生の達成すべき行動目標」の達成度を自己評価できる。																				
⑦	達成度評価																						
指標と評価割合		評価方法	試験	クイズ 小テスト	レポート	成果発表 (自願・実技)	作品	ポर्टフォリオ	その他	合計													
	総合評価割合		0	0	34	10	0	46	10	100													
総合 力 指 標	知識を取り込む力		0	0	13	0	0	5	0	18													
	思考・推論・創造する力		0	0	8	0	0	3	0	11													
	コラボレーションとリーダーシップ		0	0	3	5	0	0	0	8													
	発表・表現・伝達する力		0	0	10	5	0	3	0	18													
	学習に取り組む姿勢・意欲		0	0	0	0	0	35	10	45													

※総合力指標で示す数値内訳は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

1

①科目の基本的な情報である単位数や開講期を記載しています。

②科目担当者情報については、授業開始時に担当教員から知らされます。

③学習教育目標とキーワードおよび授業の概要を記載しています。

④授業で使用される教科書や参考書を記載しています。

⑤履修前に必要とされる知識や技能などを記載しています。

⑥学生の行動目標が明示され、「何ができるようになるか」を記載するとともに、教育プログラムでの教育目標との関係を記載しています。

⑦評価の方法と割合を記載しています。

⑧総合力指標で示す数値は、授業運営上、考慮する総合力についておおよその目安を記載しています。

6001-01
⑨ 評価の要点

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点
試験	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	
クイズ 小テスト	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	
レポート	①	●課題① キャンパスラリーレポート (6点)
	②レ	●課題② 図書情報レポート (6点)
	③レ	●課題③ キャリアデザインレポート 1 (6点)
	④レ	●課題④～⑦ 聴講ノート(1)～(4) (4点×4 =16点)
	⑤レ	
	⑥レ	
成果発表 (口頭・実技)	①	●課題⑧ グループ討議メモ用紙(1) (4点)
	②	●課題⑨ プレゼンテーションの成果(1) (6点)
	③	
	④レ	
	⑤	
	⑥	
作品	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	
ポートフォリオ	①レ	●1週間の行動履歴 2点×15週 =30点 ●新聞ポートフォリオ 2点×5週 =10点 ※提出する授業回などについては、修学アドバイザーの指示に従うこと。 ※提出の有無に関わらず、「行動履歴」は毎週作成し、新聞に毎日目を通す習慣を身に付けること。
	②	
	③	
	④	●課題⑩ 前学期の達成度自己評価 (回顧と展望) (6点)
	⑤	
	⑥レ	
その他	①	●10点満点で、受講態度の不良(遅刻、欠席、学習意欲の欠如、課題やその他の提出物の未提出、グループ活動への非協力など)が見られる場合減点する。
	②	●80以上の欠席はF判定となる。
	③	●講話の遅刻者・欠席者は後日ビデオを視聴する。
	④	●個人面談の無断欠席者は15回目の授業を欠席扱いとする。
	⑤	
	⑥レ	

⑩ 具体的な達成の目安

理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
<ul style="list-style-type: none"> ●「1週間の行動履歴」を記録し、自省することによって、次週への目標を明確に記すことができる。 ●文章作成の基礎を理解し、ルールに従って、正しく明解に文章を作成することができる。 ●講話を聴きながら要点を整理し、後に自分の意見と照らし合わせるながら講話の内容をまとめることができる。 ●自分の意見を他者の意見と対比させながら明確に述べ、まとめて記すことができる。 ●本学の施設や教育課程を理解し、自己の学習計画を作成できる。 ●授業に欠かさず出席し、提出物の期限を守るなど、学習に対する積極的な態度が身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「1週間の行動履歴」を記録することができる。 ●文章作成のルールに従い、文章を作成することができる。 ●講話の内容を簡潔書きでまとめることができる。 ●自分の意見と他者の意見を区別することができる。 ●本学の施設や教育課程を理解している。 ●授業に出席し、提出物の期限を守るなどの学習態度が身に付いている。

2

⑨使用される評価方法ごとに行動目標との関係と、評価の際の実施方法や注意点など具体的な内容について記載しています。

⑩当該科目で期待される理想的な達成度レベルと、標準的な達成度レベルを記載しています。

⑪各回の授業内容を明示しています。レポートや学習課題、予習・復習の内容を目安となる学習時間とともに記載しています。

6001-01
⑪ 授業明細表

C L I 学習プロセスについて
 一般に、授業あるいは課外での学習では、「知識などを取り込む」→「知識などをいろいろな角度から、場合によってはチーム活動として、考え、推論し、創造する」→「獲得した内容を表現、発表、伝達する」→「総合的に評価を受ける、Good Work!」：のようなプロセス（一部あるいは全体）を繰り返しながら、応用力のある知識やスキルを身につけていくことが重要です。このような学習プロセスを大事に行動ください。
 ※学習課題の期間には、指定された学習課題に要する他格的な時間を記載してあります。日本の自学自習時間全体としては、各授業に応じた時間（例えば2単位16週科目の場合、予習2時間/復習2時間/週）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

回数 日付	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	時間(分)※
第1回 /	<ul style="list-style-type: none"> ●修学基礎ガイダンス ・「大学生として学ぶ」ということの意味の理解（「生徒」と「学生」の違い、「教わる」と「学ぶ」の違い、など） ・大学での学び方（ノートの取り方を含む）の理解 【持参物】 『修学基礎2015』	指定教室での講義・演習	【課題】 ・1週間の行動履歴 ・新聞ポートフォリオ ・課題①キャンパスラリーレポート	30 60 90
第2回 /	<ul style="list-style-type: none"> ●学長講話（講師：石川憲一 学長） ・講話「大学で学ぶということ」の聴講 ・聴講を通して、本学学生としての自覚の深化、および、修学意欲の向上 【持参物】 『修学基礎2015』、『CAMPUS NOTE 2015』	多目的ホールでの講話の聴講 [遅刻者の入場は認めず、欠席者とともに後日ビデオ視聴する]	【課題】 ・1週間の行動履歴 ・新聞ポートフォリオ ・課題①キャンパスラリーレポート	30 60 90